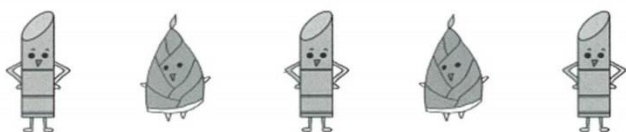


竹が繋ぐ地域との輪！笑！ ～私たちのESD活動～



I はじめに

本校は、豊田市東部の山間部に位置する地元に根付いた緑豊かな学校である。一昨年度、創立70周年を迎え、生活情報科からライフコーディネート科へと学科改編を行った。現在は、1学年普通科3クラス、ライフコーディネート科1クラスという編成になっている。

家庭クラブ活動はライフコーディネート科が行っており、環境問題やゴミ問題に取り組み、現在も継続的に活動している。



II 題目設定の理由

学校周辺の松平地区にある竹林を活用し、竹炭製品の開発・販売を14年間行ってきたが、松平高校に通い竹炭活動をする私たちでさえ、この地域の竹林や自然環境の抱える問題について、深く考えたことがなく、竹炭の一連の活動は家庭クラブの伝統としてしか捉えていなかった。竹炭や竹を取り巻く環境について詳しく知るため、平成29年度愛知県が推進す

る環境活動「あいちの未来クリエイト部」に参加した。そこでは竹林の問題について専門家から学ぶことができ、里山のあり方、竹を活用する意義を改めて理解することができた。さらに竹で作られた玩具に親しみや興味を持ってもらうきっかけとなる「環境学習プログラム」を作る計画をたてた。松平の竹林を地域の人たちと共に、身近な環境問題として知ってもらいたいと考え、この題目を設定した。

III 実施計画

- 1 実態調査
- 2 研究活動
- 3 普及・実践活動
- 4 評価と今後の課題

IV 実施状況

1 実態調査

家庭クラブ員107名に地域の竹についてのアンケートを行ったところ、本校周辺の竹林の存在を知らない生徒が7%であった。放置された竹林が及ぼす害について知らない生徒は67%、本校家庭クラブの竹炭活動を知らない生徒が7%、「たけのこ」がどのように生えて採るものかを知らない生徒が33%であった。

アンケート結果から、身近に存在する竹についての理解や家庭クラブの活動がクラブ員にも浸透していないことが分かった。

2 研究活動

(1) 学校周辺の竹林の状況

本校周辺は、孟宗竹の繁殖により手入れの行き届かない竹林が多い。地域で竹炭作りを実践している『大内竹工房』のみなさんと竹炭作りをする中で、手入れの行き届いた竹林と鬱蒼とした竹林の違いを覚えてもらった。工房のある竹林は、手入れをしなくなった段々畑に孟宗竹が繁殖し、鬱蒼とした所である。現在はその手入れと共に炭焼きをしているとのことだった。

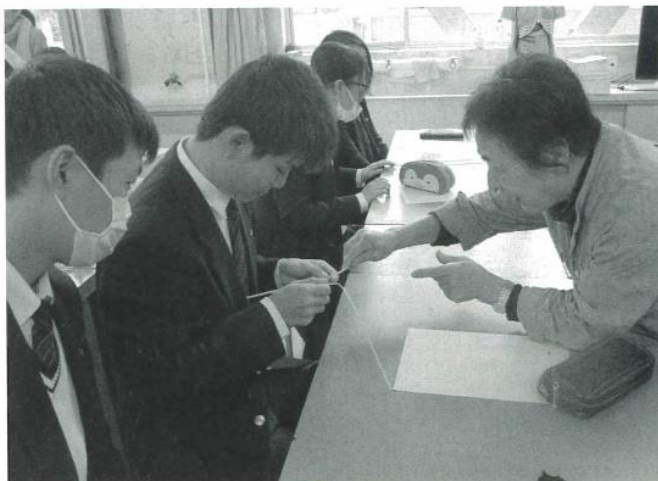


竹林の様子



竹炭の消臭袋

(2) 地域の有識者との協同活動



松平地区で伐採した竹を竹細工として利用しているグループ「かごやひめ」代表の西村豊氏に講義していただいた。生徒のほとんどが竹に触ったことがなく、竹の触感や竹加工の実演を目の当たりにし、竹の有効活用について理解を深めた。また、家庭クラブ活動の一環として、本校用務員の指導のもと、校内で繁殖しているたけのこを採り、調理をした。いわゆる「地産地消」という食育と、竹が伸びる前に伐採する「竹林保全」という環境活動を実践できた。

(3) 専門家からのアドバイス

大学の専門の先生方より、それぞれの観点で実験や講義をいただいた。

ア 金城学院大学薬学部准教授 吉田耕治氏より、竹の活用について教わった。大学が保全している学内の里山や竹炭作りの設備を見学した。手入れの行き届いた雑木林の明るさ・植物の種類の多さを目の当たりにした。実際に竹を切り、節をとり、活用の一例として「流しそうめん」を行った。

イ 中京大学工学部教授 野浪亨氏より、竹炭の吸着効果について実証実験を元に講義をしていただいた。竹炭がにおい物質を吸着する仕組みと、実際に本校周辺の窯で焼いた竹炭の吸着効果の実証ができた。

ウ 愛知学泉大学現代マネジメント学部教授 堀田裕子氏より、地域連携のあり方について教わった。平成29年度松平高校家庭クラブ総会にて講演していただき、この講演を機に、稲武まゆっこ活動や大学祭に参加し、大学生と協働する機会ができた。

(4) 環境学習プログラム(竹遊びゲーム)の制作

幼児、小学校低学年向けに地域の竹林問題について「楽しみながら学べる玩具」を制作した。制作過程において、様々なアイデアを出し合い活発な議論が展開できた。定期的にアドバイザーの意見をいただくことができた。玩具やクイズを盛り込み竹に親しみを持ってもらうとともに、普段の生活で竹が活用されていることを遊びながら学べる「すごろくゲーム」と、在来種の真竹と外来種の孟宗竹についての「カードゲーム」を制作することができた。



竹林問題について楽しみながら学べる玩具

グラムを作成し、環境に関するイベントにも積極的に参加した。

(2) 地域のこども園での交流

年長2クラスの室内遊びとして竹製の手作り玩具を使用した。手作りの遊具に園長先生はじめ職員の方々は好意的であった。こども園周辺は竹林が生い茂り、ほとんどの園児が竹を知っていた。園児向けに遊び方をシンプルにし、イラストを多く取り入れる工夫をした。そのため、年長児では一生懸命遊ぶ姿が見られた。積み竹、竹けん玉は難しいようで、「チャレンジは3回」と決めていたが、何度も挑戦する幼児の特性を実感し、幼児教育の難しさを痛感した。



普段の生活で竹が活用されていることを遊びながら学べる「すごろくゲーム」

4 評価と今後の課題

この3年間の活動を通して、私たち家庭クラブ員自身も竹の魅力を再確認することができた。先輩方の活躍で「竹炭といえば松平高校」と認知されてきたが、今後は「竹の活用といえば松平高校」と認知されるよう、後輩と共に継続的に発信し続けていきたい。また、地域の有識者や専門家と関わり、共に活動をする中で、交渉力、発想力、行動力、使命感、責任感を実感し、座学だけでは身につけることができない実践力を養うことができた。

私たちならではのESD活動を発信することで、地域の方々に興味を持ってもらうためにも、今後も地域との連携を大切に、活動を充実、継続させていきたい。

3 普及・実践活動

(1) 各種イベントへの参加

例年、本校では竹炭で作った消臭剤などのグッズを校内・地域で販売活動をしている。更に一昨年度から環境学習プロ

